

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

これまで発行した
CS通信や「コミュニ
ティ・スクール」に関
する情報はこちらへ



北海道 子ども地域支援

検索

《子ども地域支援グループHP》

コミュニティ・スクール推進協議会(胆振)

去る10月2日(水)、胆振管内(会場:むろらん広域センタービル、参加者17名)で、コミュニティ・スクール推進協議会が開催されました。講話と実践発表の概要を紹介します。

■ 講話「学校との地域の連携・協働について」

恵庭市立柏小学校におけるコミュニティ・スクールの取組

～地域の子どもは地域で育てる～

恵庭市立柏小学校教頭 奥寺 徳之 氏

- 柏小学校区は、平成15年に地域住民の手による通学合宿が始まった「通学合宿発祥の地」であり、地域の教育力が高い。
- コミュニティ・スクールは、約1年の準備期間を経て、平成29年度から導入され、「確かな学力プロジェクト」「思いやりの心プロジェクト」「たくましい生活プロジェクト」の3本柱で推進している。
- CS導入前から実施してきたことを生かし、無理なく推進することを大切にしている。
- 学校運営協議会の委員が各部会の部長となり、具体的な取組が推進されている。
- 年4回の学校運営協議会のほかに、各部会の打合せを行っているが、例えば、朝の見守り活動や環境整備の後に集まり、次の活動について打合せを行うなど、随時行っているという感じである。また、こうした打合せの場面を捉えて、学校からの要望を伝えると、すぐに対応してくれる。
- 学校運営協議会の意見による取組の主なものとして、学校の空き教室を利用し地域の人が集う「コミュニティ・ルーム」の設置、放課後学習会や夏休み学習会の実施、中庭の環境整備等があり、どの取組も非常に効果的であると感じている。
- CSが導入されて2年以上が経過したが、CSを知らない保護者がまだ多いため、より一層の周知が必要であると感じている。
- 学校運営協議会とPTAの連携についても整理する必要があると感じている。
- CSの仕組みをうまく機能させるためには、学校が困っていること、地域の方々がやってみたいことなどを遠慮なく言い合える関係をつくるのが大切である。
- CSの仕組みを生かすことが当たり前になること、子どもたちが「自分の学校は、よい学校」と言えるように教育環境を整えることを目指している。



■ 実践発表 豊浦町教育委員会生涯学習課社会教育係長 ニツ森 博幸 氏

- 豊浦町のCSは、教育委員会の社会教育主事が連絡調整や事務処理等を行い、学校が負担感を感じないようにしている。
- 社会教育主事がCSに関わる業務を担うことで、地域の魅力を学校に紹介したり、学校の悩みを地域に理解してもらったりすることができる。
- 学校が今、困っていることや課題を学校運営協議会の議題としている。
- 学校運営協議会に諮ることで、これまで、学校や教育委員会だけでは実現できなかったことが、地域の力によって実現できるようになった。



コミュニティ・スクール推進協議会(檜山、上川)

去る9月18日(水)、檜山管内(会場:檜山合同庁舎、参加者28名)、10月8日(火)には上川管内で(会場:上川教育研修センター、参加者43名)でコミュニティ・スクール推進協議会が開催されました。実践発表の概要を紹介します。

■ 檜山管内

松前町立大島小学校長 岩井 栄一 氏

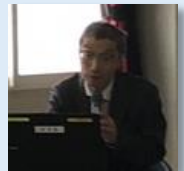
- 松前町ではCSの導入に向けて1年の準備期間を設けた。この間、準備委員会を立ち上げ、6回の熟議、先進地の視察、保護者や町民への周知等に取り組んだ。
- 平成30年5月に、中学校区を単位としてCSが導入された。委員の皆さんとは準備段階から議論を重ねてきたため、導入当初から緊密な連携体制が築かれていた。
- 書道教育とふるさと教育は、CS委員や地域講師に担ってもらい効果が上がっている。学力・体力向上の支援の方策は、現在、議論を重ねているところである。



■ 上川管内

北広島市立西部中学校教頭 得能 敏宏 氏

- 本校は、平成25年から、校区の西部小学校と合同の学校運営委員会を設置し、一体となってCSを推進してきた。
- コミュニティ・スクールに関わる業務を校務分掌に位置付け、教職員の参画意識を高めている。
- 子どもたちの自尊感情の高まりや地域との関わりの充実など成果が見られている。また、保護者からは「子どもたちの挨拶が素晴らしい」「学校・保護者・地域が密着していることが感じられる」などの声が聞かれている。



CSの導入により変わったことは? ② (推進協議会アンケートの記述から)

- 学校運営協議会で話し合うことにより、学校のことをより我が事のように、より考えてくださり、学校のために動いてくださる方々が増えたと思います。
- 地域ボランティアの人数が増え、地域が協力的になりました。
- 地域コーディネーターが機能しているため、大変助かっています。学校と地域をつなぐことはもとより、教員でなくてもできる仕事や取組、授業の手伝いなども学校支援ボランティアとつないでくれています。
- 保護者が学校に足を運ぶ機会が増えました。
- 導入して間もないため、何かが変わったという段階ではありませんが、今後は楽しみです。

CS実践事例集を追加発行しました。

10月1日(火)にCS実践事例集を5市町分(三笠市、東川町、八雲町、南富良野町、中標津町)を追加発行しました。三笠市と東川町は市町としての取組を、八雲町と南富良野町、中標津町は学校としての取組を掲載していますので、是非参考にしてください。子ども地域支援グループHPに掲載しています。

[実践事例集はこちら](#)



【担当から】今年度の推進協議会では、熟議の中で「学校運営協議会を通すと、これまで懸案とされていたことが、すぐに解決された。」「学校運営協議会の意見だと、関係部署の動きが速い」など、CSの仕組みを活用する具体的なメリットが聞かれるようになりました。導入後、一定の期間を経て成果が実感されるようになってきたと感じています。また、「学校は、困っていること(課題)を正直に伝えることが大切である」という話が随所で聞かれました。CS導入後の充実のポイントではないかと感じています。(担当:子ども地域支援G 主査 吉村 公孝)